

平成24年度 森林総合研究所 北海道地域研究成果発表会

(報告)

日時：平成25年2月28日（木）13時30分～16時00分

会場：男女共同参画センター 3階 ホール（札幌市中央区北3条西8丁目エルプラザ）

題名：「これからの北の森づくりを考える」

発表1. 温暖化によるトドマツオオアブラムシの被害拡大を予測する

発表者) 尾崎 研一

発表2. 針広混交林の択伐施業林分におけるエゾマツ植栽試験

発表者) 飯田 滋生

発表3. ヤナギの超短伐期施業でバイオマス生産！

発表者) 宇都木 玄

発表4. 高収量品種を利用した効率的なヤナギバイオマス生産

発表者) 矢野 慶介

内容：北海道地方におけるこれからの森づくりを考えるうえでヒントとなる、トドマツ、エゾマツ、ヤナギに関する研究成果の発表を行いました。

トドマツ、エゾマツは北海道の代表的な造林樹種であり、育林技術については長年培われたものがありますが、ここは従来の考えと少し違う観点から研究した成果を紹介しました。

ヤナギは東京電力福島第一原子力発電所の事故や木質バイオマスの固定価格買取制度の発足に伴い注目を集めている木質バイオマス資源作物のなかで、北海道に適した樹種の一つです。ヤナギについては事業規模での植栽にむけての成果を紹介しました。

当日は、道、道関係機関、森林管理局、北海道大学、一般企業、一般市民などの皆様にたくさんご来場いただきました。（受付数113名）



発表1（尾崎）



発表2（飯田）



ポスター展示



発表3（宇都木）



発表4（竹田）



会場内